

西九州大学 教育に関する基本方針

建学の精神	高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する。						
基本構想	<p>(1) 食・栄養、福祉、介護、スポーツ、保健医療、教育・保育・心理の分野で、その存在を地域社会から広く認知され、その課題解決の能力を大いに期待される学園を目指す。</p> <p>(2) 「あすなろう」の精神に基づき、高い志をもって前向きに努力する心を育む人間関係と質の高い専門的な教育と研究を実施する。</p> <p>(3) 人口減少社会、超高齢化社会、急速に進むグローバル社会など厳しい現状を冷静に分析し、意識改革をしてイノベーションを目指す戦略的な学園運営を行う。</p> <p>(4) 第4次中期目標・中期計画は、平成30年度から平成34年度までの5年間とする。</p>						
学園方針	<p>6つの柱：マスタープラン</p> <p>(1) 永原学園のブランド力強化 学園全体及び各部門の存在感を示す。各部門の個性を発揮する。教育研究の質的転換。</p> <p>(2) 学生、園児の学習・生活支援 学生、園児の学習・学園生活を強力に支援。キャンパス・教育環境・自然環境の整備。</p> <p>(3) 地域連携・協働 地域の地（知）の拠点となる教育研究の実施及び地域再生の核となる事業の創出。</p> <p>(4) リカレント教育の推進 リカレント教育の戦略を策定。学びやすい学内環境の整備（体制の整備）</p> <p>(5) イノベーションの創出 困難な時代を切り拓く新たな挑戦を積み上げて変革を目指す。グローバル化に挑戦。</p> <p>(6) 経営の安定化 入学定員確保のための全ての行動を格段に強化。財政基盤の強化。ガバナンスの強化。</p>						
教育目的	西九州大学（以下「本学」という）は、広く知識を授け人間性の高揚を図るとともに、深く生活の基本となる専門の学術を教授研究して、高度の専門知識と応用技術を開発し、社会に貢献しわが国文化の向上と人類の福祉に寄与する人物を育成することを目的とする。（学則 第1条）						
	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科
	健康栄養学科は、健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけ、対象者や対象集団に合わせた栄養ケア活動を展開できる専門職を育成する。（学則 第3条の3 第1項）	社会福祉学科は、地域社会においてすべての人が、その人らしく豊かに生活できる社会の実現にむけて、社会および生活に関する諸科学を総合的に教育研究し、人間性豊かな社会福祉の専門職を養成する。（学則 第3条の3 第2項）	スポーツ健康福祉学科は、ユニバーサル社会の理解と福祉の心を基盤に、身体運動を通じた生活支援ができる専門的な知識技術と応用的能力を備えた社会人を育成する。（学則 第3条の3 第2項）	リハビリテーション学科は、障害の予防と治療を目的とした理学療法、作業療法の基礎及び臨床応用の教育研究、また、地域特性を考慮した地域リハビリテーション重視の教育研究を行うことを目的とする。（学則 第3条の3 第3項）	子ども学科は、子どもに関する学際的総合的な研究の体系化と、それを基礎とした応用的かつ実践的な教育を行い、子どもへの科学的な理解と愛情を基礎に、豊かな人間性と高度な知識技能をもって、子どもの健全な発達を支援する教育・保育の専門職業人及び広範な領域で活躍する人材の育成を目的とする。（学則 第3条の3 第4項）	心理カウンセリング学科は、人間への深い愛情と心の理解に基づき、子どもと彼らを取り巻く人々への臨床心理学的支援が行える専門職業人及び地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする。（学則 第3条の3 第4項）	看護学科は、人に対する思いやりを持ち、対象とする人々が、その人らしく地域で生きることを支えるために必要な倫理観、科学的根拠に裏付けされた専門知識と判断力を身につけ、関連職種と連携しながら看護実践ができる看護専門職を育成することを目的とする。（学則 第3条の3 第5項）
目指す人間像	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科
「倫理観」、「優しさ」、「思いやる心」といった医療人としての資質能力を備え、栄養・食生活支援を通して、人々の生活の質の向上や豊かな生活の実現に貢献できる管理栄養士	社会福祉学を基礎として、より良き福祉社会の実現に向けて、専門的知識技術と実践力、応用力を備えて行動できる人	人間性豊かで福祉の心を持ち、スポーツや身体運動についての専門的知識・技術と応用的能力を通して、すべての人の健康生活支援ができる人	保健・医療・福祉におけるリハビリテーションの研究・実践の発展に寄与し、地域の課題解決に向け地域社会と密接に連携し、広く社会に貢献できる理学療法士・作業療法士	子どもに対する理解と愛情を基盤に、その心身の発達を助長する専門的知識技術と応用的能力を備えた社会人	豊かな人間性と確かなコミュニケーション能力を持った臨床心理の専門職業人、および専門知識と応用技術を持って社会に貢献できる人	人に対する思いやりを持ち、対象となる人々が、その人らしく地域で生きることを支えるために必要な倫理観、科学的に裏付けされた専門知識と判断力を身につけ、関連職種と連携しながら、人々の生活を支援できる人	

西九州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に於いた適切な方法で多様な入学選抜を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜する。

健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科
<p>健康栄養学部健康栄養学科では、食を通じた健康づくりと疾病の予防や治療に情熱をもって取り組む管理栄養士の育成を目的とし、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①食を通じて、世のため、人の役に立ちたいと考えている人</p> <p>②人が好きで、相手の立場を思いやることができ、協調性のある人</p> <p>③大学教育の修得に必要な基礎学力を備えている人</p> <p>④専門職としての責任を自覚し、生涯学習する意欲のある人</p> <p>人体の構造と機能の理解をした上で、健康や疾病と食事との関係を知り、その人に必要な料理をおいしく提供したいという思いをもっている学生を受け入れたいと考えている。本学科への入学を希望する学生は、高等学校において基本とされる教科について高等学校卒業相当の知識を有していること、理科では「化学基礎・生物基礎・化学・生物」のうち1科目以上を履修していることが望ましい。また、課外活動やボランティアなどに積極的に取り組む姿勢も大切である。</p>	<p>社会福祉学科では、将来、社会福祉施設や医療機関などで活躍する専門職や福祉的人間力を備えて社会の幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的とし、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①自分を成長させ、人の役に立ちたいという意欲のある人</p> <p>②人や地域社会に興味を持って人</p> <p>③世の中の出来事に興味を持って人</p> <p>④社会福祉の仕組みやあり方を学習するために必要となる基礎学力がある人</p> <p>以上のような基本方針に基づき、本学科では社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、教員などを養成するための専門科目群を準備している。多様な専門性に開かれていた本学科への入学を希望する人は、高等学校におけるさまざまな学習を積極的に取り組んでおくことを望む。教科の中では特に、心情豊かに伝えあうコミュニケーション力を養う「国語」、現代の社会について主体的に考え、人間としての在り方や生き方について学ぶ「公民」、思考力を伸ばし、日常生活に必要な知識と技術を習得させる「家庭（福祉領域）」の内容に興味を持って学習していることを期待する。また、保健体育、芸術や課外活動などにも積極的に取り組み、協調性や自主性を培おうとする姿勢も大切である。</p>	<p>スポーツ健康福祉学科では、ユニバーサル社会の理解と社会福祉の専門知識を持ち、すべての人に健康運動やスポーツ、レクリエーションを活用して総合的な健康を支援し、豊かな生活の構築に貢献できる人材を養成することを目的として、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①スポーツやレクリエーション活動などの身体運動と福祉に興味や関心を持つ人</p> <p>②身体運動を通して人々の健康生活を支援することで社会に貢献したいという意欲がある人</p> <p>③優しい人間観と健全な社会観をもっている人</p> <p>④何ごとにも熱意と主体性をもって取り組もうとする人</p> <p>以上のような基本方針に基づき、スポーツ健康福祉学科では、健康運動指導士、健康運動実践指導者、障がい者スポーツ指導者、スポーツ・レクリエーション指導者、レクリエーション・インストラクター、公認スポーツ指導者、社会福祉士等、人々の健康生活を支援するための資格や、中学校および高等学校教諭一種免許（保健体育）を取得するための専門科目群を準備している。したがって、コミュニケーションに必要とされる幅広い教養と、何ごとにも主体的に取組む姿勢を身に付けていることが期待される。教科の中では特に、コミュニケーションの基本となる「国語」、人間社会の在り方を学ぶ「公民」、心と身体の健康づくりについて学ぶ「保健体育」、自然界のしくみを学ぶ「理科」などを学習していることが望まれる。</p>	<p>リハビリテーション学科では、保健・医療・福祉チームの一員として対象者や地域・社会の多様なニーズに応え、地域の課題解決に向けて活躍できる理学療法士、作業療法士を育成することを目的とし、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①理学療法士・作業療法士を目指す動機と意欲がある人</p> <p>②大学教育の修得に必要な基礎学力を備えている人</p> <p>③相手の立場に立ったコミュニケーションがとれる人</p> <p>④物事を順序立てて論理的に考えることができる人</p> <p>以上のような基本方針に基づき、人の生活と人権を尊重し、他者の立場で考えることのできる豊かな心とコミュニケーション能力をもち、保健・医療・福祉の専門職として、地域の課題に取り組み、地域の方々の豊かな生活実現に向けて貢献しようとする目的意識と情熱を持つ学生を積極的に受け入れる。</p> <p>本学科への入学を希望する者は、高等学校において修得すべき教科を幅広くしっかりと勉強することが必要であり、中でも理科の科目を履修していることが望ましい。</p>	<p>子ども学科では、将来、保育所、幼稚園、小学校の教員など、子どもに関わる職業に就く人材を育成することを目標としており、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①子どもが好きで、将来何らかの形で子どもと接する職業に就きたいと考えている人</p> <p>②知的好奇心が旺盛で、大学での学習や教員・保育士の採用試験に必要な基礎学力がある人</p> <p>③教育・保育の仕事を理解し、将来の目標に向かって自らを向上させようと努力する人</p> <p>④子どもの教育・保育が将来の日本の発展に寄与することを自覚し、使命感、責任感がある人</p> <p>以上のような基本方針に基づき、子ども学科では保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得できる専門科目群を準備している。また、単なる知識や技能の習得に終わらないよう、必要な保育実習、教育実習を4年間のカリキュラムの中に配置している。入学後は、理論と体験を共に重視する学習活動を通して、しっかりと保育指導や教科指導ができ、豊かな子ども観や人間観を身につけるための専門的教育をしていくが、そのためには高等学校において基本とされる教科を幅広く勉強し、確かな学力として習得しておくことが極めて重要である。</p>	<p>心理カウンセリング学科では、地域社会に貢献する心理カウンセラーの資質を持った専門職業人を養成することを目的とし、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>①子どもや彼らを取り巻く人々への心の支援にかかわる職業に就きたいと考えている人。</p> <p>②心理的支援を行うために必要な基礎学力がある人。</p> <p>③人の心や行動に関心がある人。</p> <p>④人とのコミュニケーションを深め、自らを向上させようと努力する人。</p> <p>以上のような基本的な考えに基づき、心理職(公認心理師、認定心理士、児童心理司任用資格、大学院へ進学しての臨床心理士受験資格取得)、教育職(高等学校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許)、福祉職(社会福祉主事任用資格、児童福祉司任用資格*、児童指導員任用資格)の専門職業人となるために必要な基礎的、専門的科目群を準備し、子どもをめぐる様々な問題に対応できる高度な資質と応用能力を持ち、さらに実践的で多彩な実習を通して、対人援助技法の習得や子どもや彼らを取り巻く人々がより良く生きるための支援について実践できる学生を受け入れたいと考えている。*卒業後1年以上、特定業務を行い取得できる資格</p>	<p>看護学部では、対象となる人々が地域でその人らしく生きることを支える看護専門職を育成することを目的とし、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。</p> <p>・人間や健康およびそれを取り巻く地域社会に関心をもった思いやりのある人</p> <p>・物事を探求する意欲があり、生涯にわたって学び続けたいと思う人</p> <p>・将来、看護職として地域社会に貢献したいと考えている人</p> <p>・大学教育に対応するために必要な基礎学力を備えている人</p>

受入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

「学士課程における教育課程編成の方針」

- 西九州大学は、学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。
- 西九州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、確かな人間力を涵養するよう適切に配慮する。

「学士課程における教育課程運営の方針」

- 西九州大学は「学位授与の方針」に定めた、卒業時までに修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバス等で「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法を理解しやすいように配慮する。
- 西九州大学は、学生一人ひとりの主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外の学修機会に加え、学外での体験的学修を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
- 西九州大学は、学生が自己の到達度を自ら判断し、必要な科目を自ら選択し、履修計画を作成できるように教育課程を構成する。
- 西九州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行う。

教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科
<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの根幹は、専門基礎分野と専門分野の2分野から構成される。専門基礎分野には、専門分野を理解するための基礎科目として、社会と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康の分野からなる。専門分野としては、基礎栄養学と応用栄養学をベースにして、栄養士業務の基本となる栄養教育論、さらに管理栄養士の活躍分野から分類した臨床栄養学、公衆栄養学、給食経理管理論からなる。 それら科目の履修に先立ち、導入教育として専門職である管理栄養士の仕事を体感的に理解する科目である「健康栄養学概論」を設置している。 2年、3年次には、栄養ケア活動の実践において地域住民にアプローチできるようにすることを旨とする。そのために、「健康栄養学セミナー」および「健康栄養学セミナーⅡ」を学科基幹科目として開設し、個々の科目で学修した知識を統合的に発揮できる能力を養える科目を設置する。 3年次後期から4年次にかけては、その実践を評価し見直す力を養うための卒業研究ゼミナール、卒業研究・演習を設定する。 以上のような基本方針に基づき、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭免許、その他の資格が取得できる基礎から応用まで様々な専門科目群を準備している。 これらが単なる知識や技術の修得だけに終わらぬよう、実践力を養うための臨地実習などが組み込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会学、法学、心理学、医学などの隣接諸学科を応用した社会福祉学を中核に、対人援助に関する実践的な知識と技術を習得するための科目を配置する。 社会福祉にかかわる就労に向けて要求される専門的な資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、高校福祉科教員免許など）に関する科目を配置する。 社会福祉の実践現場で適用し、応用できる実践的能力を習得するため社会福祉実践にかかわる演習科目と実習科目を配置する。 人や地域社会で生じる課題に対する意識を高め、理論的な思考やコミュニケーション能力を養うための少人数単位のゼミナール形式の演習科目を配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体運動のメカニズムを理解するため、運動学、生理学、機能解剖学、スポーツ医学などを配置する。 身体運動を科学的に計測、評価、分析するための手法を学ぶために、運動負荷試験、測定評価などを配置する。 健康スポーツを実践する専門職として必要な基礎知識を修得するために、生涯スポーツ論、健康体力づくり論、レクリエーション支援論、などを配置する。 健康スポーツを実践する専門職として必要な支援技能を修得するために、運動方法学演習、レクリエーション支援演習などを配置する。 競技スポーツを指導・支援する専門職として必要な知識と技能を習得するために、スポーツ心理学、トレーニング論、コーチング学、コンディショニング演習、スポーツ指導法演習などを配置する。 高齢者や障害のある人たちの健康スポーツを実践する専門職として必要な基礎知識を修得するために、アダプテッド・スポーツ論、高齢者の健康と運動などを配置する。 全ての人の多様な生活支援方法を理解するために、地域スポーツ支援論、スポーツ文化論、ユニバーサルデザイン、健康生活と福祉技術などを配置する。 保健体育の教員として必要な知識を修得するために、教育原論、保健体育科教育法、教職実践演習などを配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人体の構造と機能及び疾病と障がいを理解するため、解剖学、生理学、運動学、内科学、整形外科学、精神医学、老年医学などを配置する。 専門職として必要な評価と治療などに関する基礎知識を修得するために、それぞれ理学療法または作業療法の評価学と治療学を配置する。 全人的・総合的かつ専門的な評価と実践の計画を立案するため、領域別・疾患別理学療法学または作業療法学などを配置する。 他職種および地域社会と協働技能や専門的対処行動や支援技能を修得するため、リハビリテーションと心理学、領域別・疾患別理学療法学実習・演習または作業療法学実習・演習、臨床実習などを配置する。 人の生活と人権を考慮し、多種多様な文化や価値観、地域社会の諸問題に関心を持つため、健康福祉概論、作業と生活などを配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の発達と教育のあり方を考究する教育学と幼児期の子ども発達と支援のあり方を考究する保育学を中核に据えつつ、心理学、福祉学、健康学、環境学など隣接諸科学の知見を応用することによる学際的総合的な科目を配置する。 実践的指導力を育成するための応用的知識および技術を習得するために、演習科目と体験学習科目を配置する。 自律的学習態度と問題解決力を育成するための少人数のゼミナール形式の演習科目を配置する。 子どもに対する複眼的な視野からの理解を深めるために、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の免許・資格の取得が可能な教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学をカリキュラムの中核に据えつつ、特別支援教育、医学、保育、福祉学などの隣接諸科学の知見を応用することにより、臨床心理学についてより深く、幅広い学際的総合的な科目を配置する。 座学で得た知識を実践で活かすことを目指し、演習科目と体験学習科目を配置する。 地域社会に貢献する心理カウンセラーの資質を持った専門職者に必要とされる資格（公認心理師、認定心理士、特選心理師、認定心理士、特選心理師）に関する科目を配置する。 入学から卒業まで、少人数のゼミと担当教員によるきめ細やかな指導を通して、学生による自主的な学習態度を育成するため、学生への個別的な学習支援と少人数ゼミナール形式の演習科目を配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護学をカリキュラムの核に据えつつ、看護実践に必要な「共通教育科目」「いのちの科学」「保健医療福祉介護の仕組み」の科目を配置する。 入学直後より地域に暮らす人々との交流を通して地域を理解し、あわせて看護専門職としての基本的態度を養う体験型科目を設定する。 関連職種との協働・連携に求められる能力を育成する科目として「関連職種連携論」「関連職種連携演習」「関連職種連携実習」を配置する。 将来のキャリア形成を見通して履修できるように、「看護統合法学領域」「看護管理・教育学群」「看護発展群」を配置する。 看護の発展に求められる学問探求の姿勢を育成するため、「看護探求群」を配置する。 看護専門職として求められる資格（保健師、養護教諭免許など）に関する科目を配置する。

西九州大学は、建学精神「高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する」を掲げ、昭和43年の創設以来、教育研究を実施してきた。本学は学士教育課程において、主体的・自立的に行動できる確かな人間力及び社会人としての汎用の能力の修得に加え、健康栄養、健康福祉、リハビリテーション、子ども、看護の5学部が提供する「栄養、福祉、スポーツ、リハビリテーション、保育・教育、心理、看護」に関する専門的知識・技能を有する人材を育成する。また本学は、地域の自然や文化を愛し、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力をもつ教養人であるとともに、専門的知識・技能を駆使して、グローバル化、高齢化・人口減少社会等によってもたらされた新しい課題の解決に向けて挑戦する心をもち、「地域生活を支援し、創造することができる人材」を育てることを、教育の理念・目標として掲げる。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。

<p>I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】</p> <p>①主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。</p> <p>②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。</p> <p>③社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。</p> <p>④生涯にわたって自律・自立して学習できる。</p>	<p>II【社会人としての汎用の能力】</p> <p>⑤確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。</p> <p>⑥自然や社会的現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。</p> <p>⑦ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p> <p>⑧情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。</p> <p>⑨問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。</p>	<p>III【教養ある専門職業人としての基礎力】</p> <p>⑩専攻する特定の学問分野における知識を体系的に理解できる。</p> <p>⑪上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け理解することができる。</p> <p>⑫多文化・異文化に関する知識の理解。</p> <p>⑬人類文化、社会、自然に関する知識の理解。</p>	<p>IV【地域生活を支援し、創造する力】</p> <p>⑭地域での実践活動をもとに、上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、地域課題を解決することができる。</p>
--	--	---	--

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科
<p>大学設置基準に基づき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①管理栄養士・栄養士として勤務するために必要な専門知識を理解し修得している。</p> <p>②対象者の社会心理的背景を理解するための広範な知識を持っている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③地域や対象者の課題を抽出し、解決策を考える事ができる。</p> <p>④解決すべき課題に優先順位をつけ、何から取り組めば良いか総合的に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑤健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけ、対象者や対象集団に合わせた栄養ケア活動を実践できる。</p> <p>⑥人や地域社会で生じる栄養・食生活の課題を明確にし、解決策を考え、提案し、また実行することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑦人や地域社会で生じる出来事や課題に関して関心をもち、栄養・食生活の改善を通じて、人々のQOLの向上に貢献するという意欲を持つ。</p> <p>⑧医療人としての倫理観と、「優しさ」と「思いやる心」を持った人間性をもち、主体的に考える態度を身につけている。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①社会学、法学、心理学、医学などの隣接諸科学を応用した社会福祉学を中核に、対人援助に関する実践的な知識と技術を修得している。</p> <p>②文化、社会、自然に関する知識を身につけ、多文化・異文化に関する柔軟な理解と共感を持つことができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③人や地域社会で生じる課題について、人と環境の關係に着目した中で理解しその課題を解決する方策を考えることができる。</p> <p>④社会や自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑤人や地域社会で生じる課題に対して、さまざまな資源を活用して解決する方法を提案し、また実行することができる。</p> <p>⑥知的活動や社会生活に必要な技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー）を修得している。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑦人や地域社会で生じる出来事や課題に対して関心をもち、生涯を通して人々の福祉増進のために貢献するという意欲を持つことができる。</p> <p>⑧地域社会の様々な人々に関心をもち、他者と協調・協働して行動することができる。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①体育学、身体運動学、保健学などの健康・スポーツ関連諸科学および社会福祉学、ユニバーサルデザイン学などの福祉関連諸科学に関する学際的、総合的知識を修得している。</p> <p>②全ての人々の健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を身につけている。</p> <p>③全ての人々の心身の健康維持・増進に関する問題点や課題を把握し、その解決策を提案することができる。</p> <p>④地域社会が抱える健康に関する諸課題を自ら発見・分析・整理して、自らの見解を形成することができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑤対象者をより健康な状態へ導くために、運動やスポーツ・レクリエーションを活用した支援ができる。</p> <p>⑥身につけた社会人としての教養およびコミュニケーション技法を活用し、他職種と円滑に連携することができる。</p> <p>⑦課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑧健全な人間観、社会観を持ち、人々の健康生活に欠かせないスポーツ・レクリエーションの発展に貢献することができる。</p> <p>⑨人間の健康生活、社会問題などについて関心をもち、常に学習を続ける向上心を持つことができる。</p> <p>⑩学習の成果を自らの生活や地域社会に還元しようとする意欲を持っている。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って129単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人体の構造と機能及び障がいについて理解し、理学療法或いは作業療法における専門職としての必要な評価・治療等に関する基礎知識を身につけている。</p> <p>②全ての人々の健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を身につけている。</p> <p>③地域の課題を拾い上げ課題解決に取り組む、地域社会から多くを学ぶために必要な知識と方法を修得している。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>④実践を通じて自己の課題を明確に、対象者の身になって他者を理解し、全人的・総合的かつ専門的な評価と実践の計画立案ができる。</p> <p>⑤社会や自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑥コミュニケーション技法をもって他職種および地域社会と協業できる。</p> <p>⑦対象者をより健康な状態へ導くために必要な専門的な対処行動が取れ、支援ができる。</p> <p>⑧課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>⑨多様な文化や価値観に関心をもち、人の生活と人権を考慮し、理学療法或いは作業療法の発展や向上をめざすことができる。</p> <p>⑩対象者らと共感性をもつて真摯な態度で接することができる。</p> <p>⑪専門職業人として、人間性豊かかつ責任ある行動がとれる。</p> <p>⑫人と社会、自然と環境、地域の諸問題について主体的に関心をもち、自主的・自律的に学修を続けることができる。</p> <p>⑬学修の成果を進展させ、自らの生活や社会に還元しようとする態度を身につけている。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って126単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①教育学、保育学を中核に、心理学、福祉学、健康学、環境学の隣接諸科学を応用した子どもに関する学際的、総合的知識を修得している。</p> <p>②文化、社会、自然に関する知識を身につけ、多文化・異文化に関する柔軟な理解と共感を持つことができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③教育・保育の現場で生じているさまざまな課題について、複眼的な視点から子ども及び子どもの育つ環境を理解し、子どもとその親への支援を考えることができる。</p> <p>④社会や自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑤教育・保育環境の構成、教材・教具の工夫をし、子どもの発達に応じた指導をすることができる。</p> <p>⑥知的活動や社会生活に必要な技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー）を修得している。</p> <p>⑦課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑧学習の成果を自らの生活や社会に還元しようとする主体的態度を身につけている。</p> <p>⑨多様な価値観と責任感を持つて他者と協調・協働して行動することができる。</p> <p>⑩教師・保育士の職務に対する使命感や責任感を身につけ、愛情をもって子どもに接することができる。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①臨床心理学を核としつつ、教育学、特に障害のある子どもの発達支援にかかわる特別支援教育、医学、保育学および福祉学の近接諸科学を応用した臨床心理学に関する学際的、総合的知識を修得している。</p> <p>②臨床心理学的立場から子どもの成長発達を理解し、地域社会での支援が出来る知識を身につける。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③子どものこころを理解し、子どもの抱える心理的諸問題を論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することが出来る。</p> <p>④子どもを取り巻く環境（家族・学校・教員・地域社会（コミュニティ））に対する深い理解に基づき、子どもの状況を判断し、子どもを取り巻く大人・環境に対する間接支援を提示できる思考力と問題解決に向けた行動がとれる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑤人間理解のための理論や基本的態度、心理査定や臨床心理学的援助技法、コミュニケーション・ケアとしての支援体制づくりなどの方法と実践力を通じて、子どもに対する心理的支援活動が出来る。</p> <p>⑥地域支援活動に必要な臨床心理学的援助技法を修得している。</p> <p>⑦課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑧人の心や行動・地域社会で生じる出来事に関心をもち、学習の成果を子どもや地域社会に還元しようとする主体的態度を身につけている。</p> <p>⑨人間への深い愛情と心の理解にもとづき、子どもと彼らを取り巻く人々に対して共感的態度をもって行動することが出来る。</p> <p>⑩専門職業人として、高い倫理観と責任感をもって、人間性豊かな行動がとれる。</p>	<p>大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って126単位以上を修得し、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①看護学を核として、地域で生活する人々を支援するために必要な基盤である「共通教育科目」「いのちの科学」「保健医療福祉介護の仕組み」に関する知識について総合的に理解している。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>②高い倫理観に基づき、対象となる人々の生命の尊厳と権利を擁護できる。</p> <p>③多様な対象の特性や状態を理解したうえで、科学的知識に基づいたアセスメントができる。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>④対象となる人々や関連職種との信頼関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>⑤対象となる人々や家族の健康課題を把握し、その人らしく地域で生きるために必要な資源について考え、科学的根拠に基づき看護を実践するための能力がある。</p> <p>⑥健康の回復、保持増進、疾病予防のために必要な看護援助が実践できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑦保健・医療・福祉・教育分野のチームの一員として、主体的に活動できる姿勢が身につけている。</p> <p>⑧看護専門職として学び続け、看護の発展や地域社会に貢献しようとする姿勢が身につけている。</p>

到達目標と学修成果

到達目標と学修成果				
【共通】汎用的能力要素 (到達目標) 及び学修成果	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある社会人としての基礎力】 (知識・理解)	【社会人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。 2) 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使できるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに則って行動し、社会の発展のために積極的に関与できる。 3) 生涯にわたって自律・自立して学習できる。	1) 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に理解できるとともに、それを外部的視点でとらえ返し、自己と関連づけ理解することができる。 2) 多文化・異文化に関する知識の理解ができる。 3) 人類文化、社会、自然に関する知識の理解ができる。	1) 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。 2) 自然や社会現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。 3) 情報や知識を複眼的、論理的に分析・表現することを通して、問題を発見し、その解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題に的確に対応できるとともに、それらをICTを用いて、表現・伝達することができる。	1) 地域での実践活動をもとに、主体的・自立的に行動できる確かな人間力としての態度や志向性を総合的に活用し、地域課題を解決するための行動ができる。 2) 地域での実践活動をもとに、教養ある専門職としての基礎力である知識や理解を総合的に活用し、地域課題を解決へとつなぐことができる。 3) 獲得した知識、技能、態度、志向性を総合的に活用し、実践活動から課題を見出し、新しい価値を創造することを通じて、地域課題を解決することができる。
【健康栄養学科】専門的能力要素 (到達目標) 及び学修成果	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) 医療・福祉に関わる専門職としての倫理観を持ち主体的に考え取り組むことができる。 2) 食生活と健康との関係や環境や社会に関心を持つことができる。 3) 他者と協調性を持つことができる。	1) 社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康についての基本となる知識と理解を身につける。 2) 管理栄養士が栄養ケアマネジメントを行うために必要となる知識を身につける。	1) 管理栄養士が栄養ケアマネジメントを行うために必要となる基本的技術を身につける。 2) 文書作成とプレゼンテーションができる。	1) 専門的知識と技術を統合し、課題の発見と解決に向けての行動力を身につける。 2) 多職種と連携し、栄養ケアマネジメントを実践する力を身につける。 3) 管理栄養士として地域に貢献できる実践力を身につける。
【社会福祉学科】専門的能力要素 (到達目標) 及び学修成果	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) 社会福祉専門職としての自立の心構えを持ち、主体的に考え、能動的に取り組むことができる。 2) 人と地域社会に関心を持つことができる。 3) 他者を理解し、協調性を持って関わることができる。	1) 人と社会、地域、福祉に関するサービスについて、基本的な知識を身につけ、理解を深めることができる。 2) 対人援助に必要な知識とともに、その方法を理解することができる。 3) 専門資格に関する知識を身につけ、社会福祉全体を俯瞰でとらえることができる。	1) 対人援助に関する基本的能力と技術を身につける。 2) 対象者ごとの特性を理解し、適切な援助ができる。 3) 文章作成力とプレゼンテーション力を身につけ、課題の発見とその解決に向けての行動力を養うことができる。	1) 社会の出来事や課題に対して関心を持ち、適切な行動がとれる。 2) 実践を通し社会福祉専門職として地域貢献できる力を身につける。 3) 社会の課題を分析して、自らの見解を形成することができる。

【スポーツ健康福祉学科】専門的能力要素（到達目標）及び学修成果	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) 人間の健康生活、社会問題などについて深い関心を持ち、主体的・自立的に学び続けることができる。 2) 学習の成果を自らの生活に還元するとともに他者と協調し、地域社会に還元しようとする意欲を持っている。 3) 健全な人間観、社会観を持ち、人々の健康な生活の発展に貢献することができる。	1) 健康・スポーツ関連諸科学及び福祉関連諸科学に関する基礎知識を身につけている。 2) 健康で文化的な生活を営むために必要な基礎知識を身につけている。 3) 健康・スポーツ、福祉に関する学際的、総合的基礎知識を身につけ、すべての人々に支援する方法を理解している。	1) 身に付けた健康・スポーツ、福祉に関する基礎知識を活用して運動技能や表現力を高めることができる。 2) 身につけた知識や技能、コミュニケーション能力を活用して他者と円滑に連携することができる。 3) 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を他者に適切に表現できる。	1) 心身の健康維持・増進に関する問題点や課題を把握し、その解決策を提案することができる。 2) 実践を通して地域貢献できる力を身につける。 3) 他者と協調して課題解決に必要な情報を収集・分析・整理・創造し、その結果を活用して地域生活支援ができる。

【リハビリテーション学科】専門的能力要素（到達目標）及び学修成果	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) 専門職業人として、人間性豊かで責任ある行動がとれる。 ・人間の生活と人権を考慮できる。 ・社会人としてマナーを身に付ける。 ・約束を守ることができる。 ・規則を守ることができる。 ・自己管理ができる。 2) 対象者らと共感性をもって真摯な態度で接することができる。 ・相手の立場を理解し、共感・受容できる。 ・理学療法・作業療法を必要とする人を全人的に理解することができる。 ・理学療法・作業療法を必要とする人やその家族の心理を理解できる。 3) 多種多様な文化や価値観に関心を持ち、人の生活と人権を考慮し、理学療法或いは作業療法の発展や向上を目指すことができる。 ・学習の成果を発展させ、自らの生活や社会に還元しようとする態度を身に付けている。	1) 人体の構造と機能及び障がいについて理解し、専門職として必要な評価・治療等に関する基礎知識を身に付けている。 ・人体の構造について理解する。 ・人体の機能について理解する。 ・疾病と障がいについて理解する。 2) 専門職として必要な評価・治療等に関する基礎知識を身に付けている。 ・理学療法・作業療法における評価、治療の流れを理解できる。 ・理学療法・作業療法における評価について知識や方法を習得できる。 ・理学療法・作業療法における治療の知識や方法を習得できる。 3) 対象者の身になって他者を理解して、全人的・総合的かつ専門的な評価と実践の計画立案ができる。 ・ICFの相互関係を理解できる。 ・対象者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法を理解できる。	1) コミュニケーション技法をもって他職種および地域社会と協業できる。 ・対象者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。 ・チーム医療に必要なコミュニケーションの技法を習得し実践できる。 2) 対象者をより健康な状態に導くために必要な専門的な対処方法が取れ、支援できる。 ・理学療法・作業療法における治療の方法を習得できる。 ・理学療法・作業療法における治療技術を実践できる。 ・対象者の予後を予測することができる。 3) 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。 ・対象者の状況を把握し課題を発見できる。 ・課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理することができる。 ・課題解決に向けて実践することができる。 ・実施したことを報告書としてまとめることができる。 ・症例レポートが書ける。 ・課題レポートが書ける。 ・プレゼンテーション力を身につける。 ・自分が考えていることをまとめ、人前で発表ができる。	1) 実践を通して自己の課題を明確に、対象者の身になって他者を理解して、全人的・総合的かつ専門的な評価と実践の計画立案ができる。 ・ICFの相互関係を理解できる。 ・対象者の自己実現に向けた生活支援の知識と方法を理解できる。 ・ボランティアなどに積極的に参加し、地域社会に貢献できる。 2) 社会と自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。 ・臨床実習に積極的に取り組みことができる。 ・臨床実習などを通して、地域で生活する人を支援することができる。 ・チームの一員として協調性を持つことができる。 ・病院・施設・在宅におけるチームアプローチの方法について理解できる。 3) 人と社会、自然と環境について主体的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。 ・研究に関心を持ち、分析・考察することができる。 ・特別講義・研修会などに積極的に参加できる。

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【子ども学科】 専門的 学修 成果 要素 (到達 目標)	<p>1) 教育職、保育職の社会的使命と職業倫理について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者、保育者の役割を考える ・教育者、保育者の倫理を考える <p>2) 自らの教育、保育を振り返ることの重要性を理解し、それに基づいて改善することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育、保育の記録を適切に取ることができる ・教育、保育にかかわる省察の重要性について理解することができる ・自己評価が適切にでき次の計画作成に活かすことができる <p>3) 子どもや保護者に共感的態度を持って接することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心・言動の背景を理解することができる ・共感的理解をもって子どもにかかわることができる ・地域、保護者の状況や意向を理解できる 	<p>1) 子どもに関する総合的知識を基盤に教育、保育の役割と機能を理解している。</p> <p>2) 子どもの発達過程を理解し、個々の特性に応じた支援の方法を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達段階を理解する ・発達段階に応じた具体的な教育・保育内容を理解している ・子どもの個人差を理解している。 <p>3) 各教科、各領域のねらいや内容、方法を理解し、総合的に指導することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領を理解する ・指導案作成や諸記録を適切に記述できる専門的用語を習得する ・各教科、各領域のねらいや内容に応じて指導することができる 	<p>1) 各教科、各領域の指導法を習得し実践することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具の工夫ができる ・指導計画立案ができる ・教材研究ができる ・身体表現 ・音楽表現 ・適切な環境構成ができる ・授業評価ができる ・ICTを利活用できる <p>2) 子どもの発達段階に応じた指導・援助ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた指導や援助ができる ・発達に応じた言語活動の指導や援助ができる ・発達に応じた表現活動の指導や援助ができる <p>3) 習得した専門的知識・技能を活用し教育、保育現場の今日的ニーズに対応することができる。</p>	<p>1) 生涯にわたり学び続ける姿勢を持つことができる。</p> <p>2) 教育者、保育者として自ら課題を見つけ解決することができる。</p> <p>3) 教育、保育において多様な他者との信頼関係を築くための働きかけを行うことができる。</p>

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【心理カウンセリング学科】 専門的 学修 成果 要素 (到達 目標)	<p>1) 心理専門職の社会的使命と職業倫理について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理専門職の守秘義務を含む職業倫理を理解できる。 ・心理専門職が担う社会的役割について理解できる。 <p>2) 人の心や行動、地域社会で生じる事象に関心が持てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞や書物を通して社会に関心を持つことができる。 <p>3) 子どもや子どもを取り巻く人材に共感的態度を持って行動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を理解し、共感的態度がとれる。 	<p>1) 心理学諸領域に関する基礎知識を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎心理学、及び心理学の研究方法に関する基礎知識を習得できる。 <p>2) 臨床心理学の基礎理論、およびその各種技法について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの基礎理論を理解できる。 ・言語的・非言語的心理療法について理解できる。 <p>3) 臨床心理学の近接諸領域に関する基礎知識を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の近接領域である医学、教育、福祉の基礎知識を習得できる。 	<p>1) 専門職業人にふさわしいコミュニケーション技能を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解・他者理解を深めることができる。 ・他者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションスキルを習得できる。 <p>2) 心理的諸問題に関心を示し、自らの見解を述べるができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、及びその分析を適切に行うことができる。 ・自らの考えを論理的に述べるができる。 <p>3) 臨床心理実践現場で求められる専門的技能の基礎を身につけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や意思を正しい文章や適切な表現方法で伝えることができる。 ・報告・連絡・相談ができる。 	<p>1) 子どもの実情を把握し、心理的課題を推察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達状況を把握することができる。 ・子どもの発達の状況から、個が有する課題が何かを推察することができる。 <p>2) 心理的課題に目を向け、地域の現状に応じた支援体制について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における子どもの現状を把握することができる。 ・子ども一人一人がおかれている状況に応じた支援体制を考えることができる。 <p>3) 心理学の基礎知識を基に、地域支援に必要な行動力を身につけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の現状を知るために、フィールドワークを計画的に実施することができる。 ・フィールドワークを基に地域支援に必要な行動力について考えることができる。

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【看護学科】 専門的能力要素 及び学修成果 (到達目標)	<p>1) <u>看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護できる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重できる。 ・プライバシー保護や個人情報の保護ができる。 ・実施する看護について説明し同意を得ることができる。 ・相手の立場にたってケアを提供することができる。 <p>2) <u>援助的関係を形成する能力を身につけている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を分析し自己理解できる。 ・看護の対象となる人々と、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。 <p>3) <u>生涯にわたり、継続して専門的能力の向上をめざすことができる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり、自己の看護実践過程や方法を振り返り、課題を見出すことができる。 ・課題解決のための自己評価と、管理を行う重要性が説明できる。 	<p>1) <u>看護の対象となる人々の健康レベルを、成長発達や個人・家族を踏まえてアセスメントできる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的、認知や感情・心理的な健康状態を査定できる。 ・成長発達による身体的・心理的・社会的変化を踏まえ、個人の生活を把握し、健康状態との関連を査定できる。 ・急激な健康破綻と回復過程にある人々、慢性疾患および慢性的な健康問題を有する人々、終末期にある人々への援助に必要な看護が理解できる。 <p>2) <u>健康の保持増進と疾病を予防する能力が身についている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進・疾病予防のために必要な看護援助について説明できる。 <p>3) <u>社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力が身についている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。 ・国際化の動向に関心を寄せ、看護のあり方について考えられる。 	<p>1) <u>根拠に基づいた看護を提供することができる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践において、理論的知識や先行研究の結果を活用できる。 <p>2) <u>計画的に看護を実践することができる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・批判的思考、論理的思考を活用して適切な看護の方法を選択できる。 ・看護過程について理解し、実践に活用できる。 ・実施した看護について評価・修正・改善・記録できる。 <p>3) <u>看護援助技術を適切に実施できる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象者に安全な環境とケアを提供できる。 ・身体に働きかける看護技術援助を理解し、指導のもとで実施できる。 ・情動・認知・行動に働きかける看護技術援助を理解し、指導のもとで実施できる。 ・人的・物理的環境に働きかける看護技術援助を理解し、指導のもとで実施できる。 	<p>1) <u>地域ケアの構築と看護機能の充実を図ることができる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を把握できる。 <p>2) <u>医療・保健・福祉・教育における看護活動と、看護ケアの改善について考えることができる</u></p> <p>3) <u>保健・医療・福祉・教育における協働と連携をする能力が身についている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームにおける看護および関連職種役割を理解し、対象者を中心とした協働のあり方について説明できる。